

令和 5 年度

若桜町包括支援センター事業報告

目次

【Ⅰ】	令和5年度 若桜町包括支援センターの重点目標に対する評価	・・・P2～3
【Ⅱ】	令和5年度 若桜町包括支援センターの業務実績	
	(1) 介護予防事業等の実施状況	
	①訪問型サービスC（短期集中予防サービス）	・・・P4
	○いきいき訪問リハ	
	②通所型サービスC（短期集中予防サービス）	・・・P5～6
	○体力づくり教室	
	○リハビリ教室すずらん	
	③一般介護予防事業	・・・P6～8
	○あんしんホッとクラブ	
	○すまいるサロン	
	○健康教室	
	○集落サロンの登録状況	
	(2) 包括支援センターの相談業務について	
	①総合相談業務について	・・・P9～10
	○相談形態別件数（延）	
	○相談内容別人数（延）	
	○相談者別人数（実）	
	②介護予防ケアマネジメント業務について	・・・P11
	○介護予防計画作成件数（延）	
	○計画作成と委託・直営の件数（件数/月）	
	○計画作成者の要介護度別件数（件数/月）	
	(3) 認定調査について	・・・P12～13
	①新規申請者の状況	
【Ⅲ】	参考資料 要介護認定率の状況	・・・P14～16
	①要介護認定率の推移	
	②要介護認定者の介護度別割合	
	③要介護認定者数	
	④認定者の介護度別構成割合	
	⑤鳥取県内の市町村別要介護認定率	

【Ⅰ】令和5年度 包括支援センターの重点目標に対する評価

「高齢者が生きがいを持って、地域で支え合い、生涯明るく健やかで安心した生活を営むことができる町づくり」【第8期（R3～R5）介護保険事業計画基本理念より】

評価（○）できた （△）まあまあできた （×）出来なかった

重点目標(1)「一般介護予防事業を安全に効果的に実施し要介護状態の延伸をはかる」

（具体策）

①一般介護予防事業「すまいるサロン」

令和4年度まで委託で実施していた一般介護予防事業「わくわく教室」と、直営で実施していた「ひまわり会」を統合し、閉じこもり予防を目的に令和5年度から直営で実施。

これまで利用していた方のニーズに合ったサービスを切れ目なく継続する。

→（○）定員24名と、比較的規模の大きな事業となったが、これまで利用していた方は、一部、状態に合わせて介護保険サービスへ移行していただいた他は、切れ目なく予防事業の提供を継続することが出来た。

重点目標(2)「認知症の当事者や家族が安心して生活できる環境の整備」

（具体策）

①「虹のカフェ」(認知症の人とみんなの会)の充実(当事者も集えるような内容に)

介護者同士が相談や、交流を行うほか、当事者も参加しやすいよう、環境や、事業の内容を検討する。

→（○）認知症のイメージカラーのオレンジの花を育てて、啓発のために配布する活動(オレンジガーデニングプロジェクト)を実施した他、おやつ作り、工作など、レクリエーション活動も充実させ、ほぼ毎回、当事者の方に参加していただくことが出来た。

②認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識や理解を促し、認知症の方を地域で見守り・支えるための普及啓発のため、認知症サポーターの養成を行う。

→（○）「虹のカフェ」(認知症の人とみんなの会)と連携して認知症サポーター養成講座を開催し、町民や、町内事業所に勤める方など、約30名の方に受講していただくことが出来た。

③認知症初期集中支援チーム員会議

認知症の方に対して、医師や精神保健福祉士等の専門家と連携し、早期に適切な支援・介入を行う。

→（○）検討委員会、チーム員会議でチームの活動内容の検討や、事例検討を行い、専門家を交えて検討した内容をもとに、ケース対応等を行うことが出来た。

重点目標(3)「住民が住民を支援出来る施策の推進」

平成29年度より、「支えあいのまちづくり推進協議会(え〜ど若桜)」を開催し、住民が住民を支援出来る施策を検討してきた。令和5年度は特に以下の取り組みを重点的に推進する。

(具体策)

①声かけ運動について検討する

社協と連携してサロンのリーダー会への参加やサロン活動への訪問を実施するとともに、声かけ運動や見守りについて地域課題を抽出し具体策を検討する。

→(△)毎年、声かけ運動の実施・啓発を行ってきたが、実態の把握や、効果の検証等が難しく、実施を見合わせた。社協との連携で、サロンの世話人の高齢化等に伴うサロンの運営支援の必要性や、サロンの無い集落の見守りについて課題を抽出したが、具体策の検討まで至らなかった。

②支え愛マップの取組の推進

令和5年度～3年間かけて全集落が一巡できるよう働きかけるとともに、特に、今まで更新されていない集落に対しては早期の更新をお願いする他、支え愛マップの作成前に住民の方や社協、町の防災担当と町歩きを行い、危険個所の把握に努める。

→(○)令和5年度は15集落でマップ更新を行い、順調に更新を進めることが出来ている。また、複数の集落で町歩きを行い、危険個所の把握をするとともに、住民の防災と見守り意識の向上に繋がった。

重点目標(4)「包括支援センターの業務が災害時等の事態が生じた場合も切れ目なく継続出来るようBCP(業務継続計画)を作成する」

(具体策)

①BCP(業務継続計画)の作成

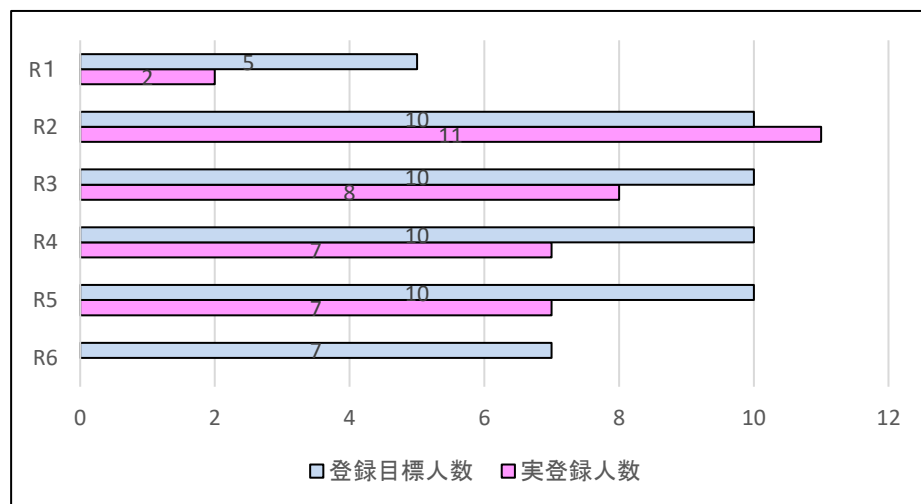
→(○)BCP(業務継続計画)を作成し、計画に基づいて業務運営を行っている。

【Ⅱ】令和5年度 若桜町包括支援センターの業務実績

(1)介護予防事業の実施状況

①訪問型サービスC(短期集中予防サービス) R1～ 鳥取医療生活協同組合 委託 ○『いきいき訪問リハ』

(ア)登録者数(人)



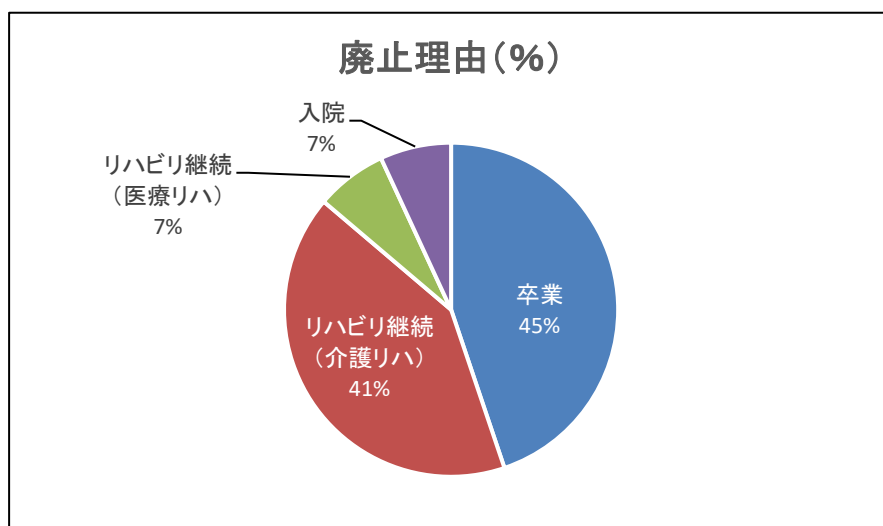
※年度末実績による

※R6年3月末で5名(R4年度登録者3名、R5年度登録者2名)が終了、6名が利用継続中。

※常時3名程度が利用。リハビリが浸透し、運動に対する意識の向上に繋がっている。

(イ)廃止理由(R1～R5)

卒業	13
リハビリ継続 (介護リハ)	12
リハビリ継続 (医療リハ)	2
入院	2
合計(人)	29



※運動習慣の獲得が目的で事業を開始し、約4割の方が卒業した。

※リハビリを継続することで、痛みの緩和や運動習慣の獲得につながっている。

しかし、一人で運動を継続することの不安から、5割の方が介護、もしくは医療の保険を利用してリハビリを継続しており、専門職によるリハビリへの依存度が高い傾向にある。

②通所型サービスC(短期集中予防サービス) ○『体力づくり教室』(運動・口腔・栄養改善プログラム)

H26～わかさ・あすなろ 事業委託

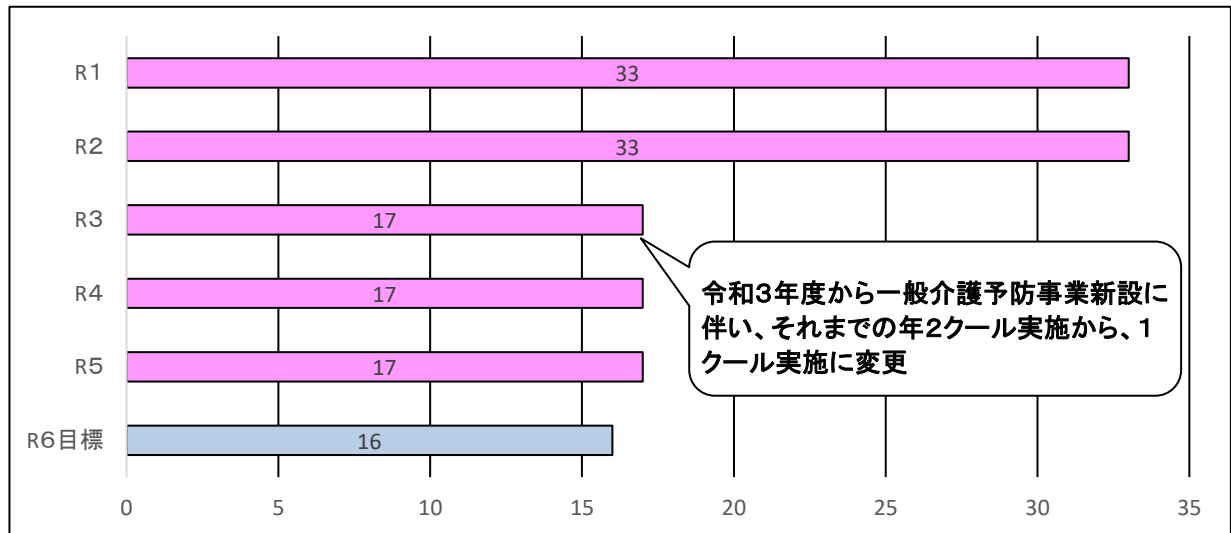
H26～「運動機能」と「口腔機能向上」の複合プログラムとしてスタート。

H28～「運動機能」「口腔機能」「栄養改善」の複合プログラムを実施。

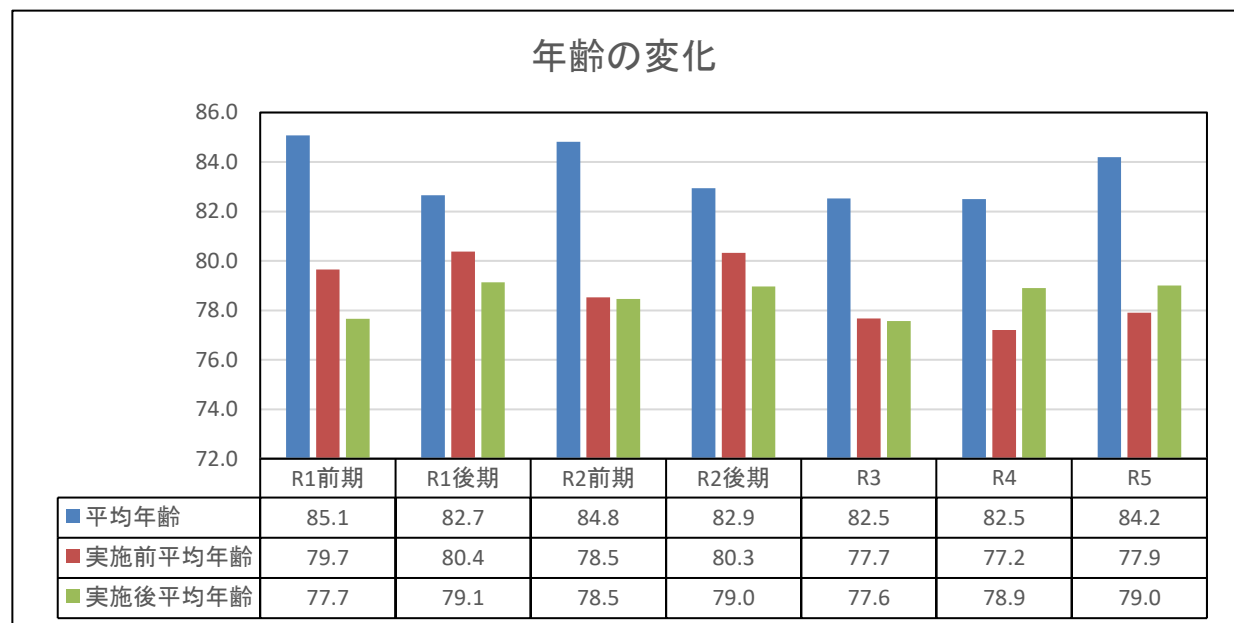
体力づくり支援士、歯科医師、栄養士による指導を5か月間集中的に通所サービスを行い、機能の向上を目指す。全20回×2クール実施。
R3に介護予防事業全体を見直し、全20回×1クール実施に変更。



(ア)参加者数(人)



(イ)体力年齢の変化



※毎年平均年齢よりも体力年齢の方が低い。令和4年度以降は事前より事後の体力年齢が上回っている。

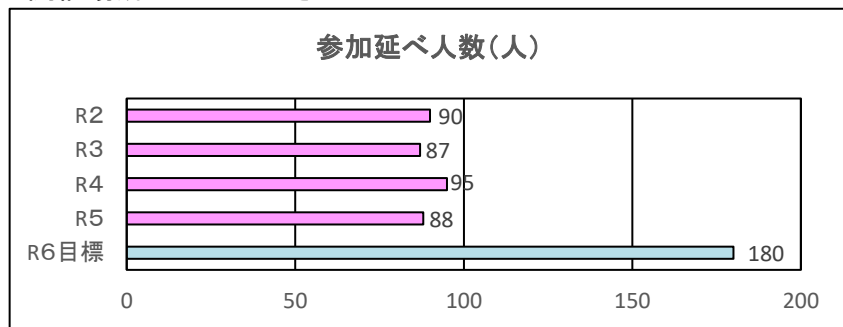
※80代が中心となって教室に参加しており、体力年齢の向上に対して効果が薄くなってきている。

○『リハビリ教室すずらん』(運動器機能向上プログラム)

R2～ 鳥取医療生活協同組合 事業委託

リハビリ専門職により、5か月間集中的に通所サービスを行い運動器機能の向上を目指す。

開催場所:レインボーさくら

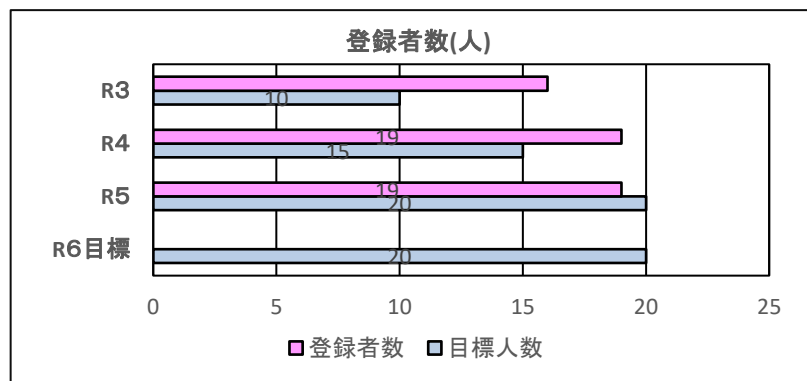


※令和2年10月より事業開始。登録者5名で全20回の教室を開催。個別機能訓練と機械訓練で運動器機能の向上を図るとともに、認知機能低下予防プログラムも実施。
 ※令和6年度より年2クール(前期・後期)開催予定。

③一般介護予防事業

○『あんしんホッとクラブ』(閉じこもり予防教室)

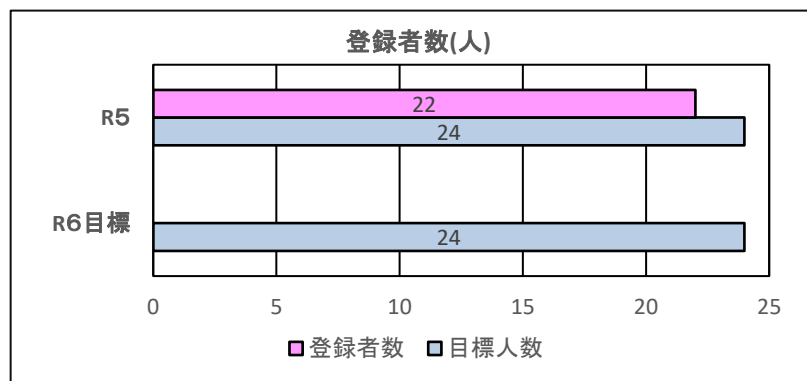
R3～ わかさ・あすなろ 事業委託



※令和3年度より、一般介護予防事業として事業を開始。季節に応じた行事や外出、脳トレなどを行い、施設で調理した食事を提供することで、満足度の高い事業となっている。

○『すまいるサロン』(閉じこもり予防教室)

R5～ 包括支援センター 直営



※令和4年度まで実施していた一般介護事業(直営事業及び委託事業)を統合し、閉じこもり予防を目的とした直営事業を新たに実施。集団での軽い運動や脳トレ、季節行事などを実施している。

○健康教室

町内の老人クラブやサロン等に赴き、介護予防や健康に関する講話、体操、レクリエーション等を行い、地域住民の健康の増進をめざす。

番号	日 時	実施対象者等	内 容	参加者 (人)
1	令和5年4月28日	つく米サロン	認知症について	12
2	令和5年6月21日	上町サロン	笑って健康！	16
3	令和5年10月15日	三倉集落	認知症について	13
4	令和5年10月17日	お気楽教室 (若桜・高齢者の料理講習会)	老いは口からやってくる	9
5	令和5年11月21日	香田サロン	私の心づもり ～ACP（人生会議）のすすめ	10
6	令和6年2月25日	JA女性会総代会	笑って健康！	34
7	令和6年3月4日	湊見サロン	私の心づもり ～ACP（人生会議）のすすめ	7
			合計	101

過去 5 年間の実績

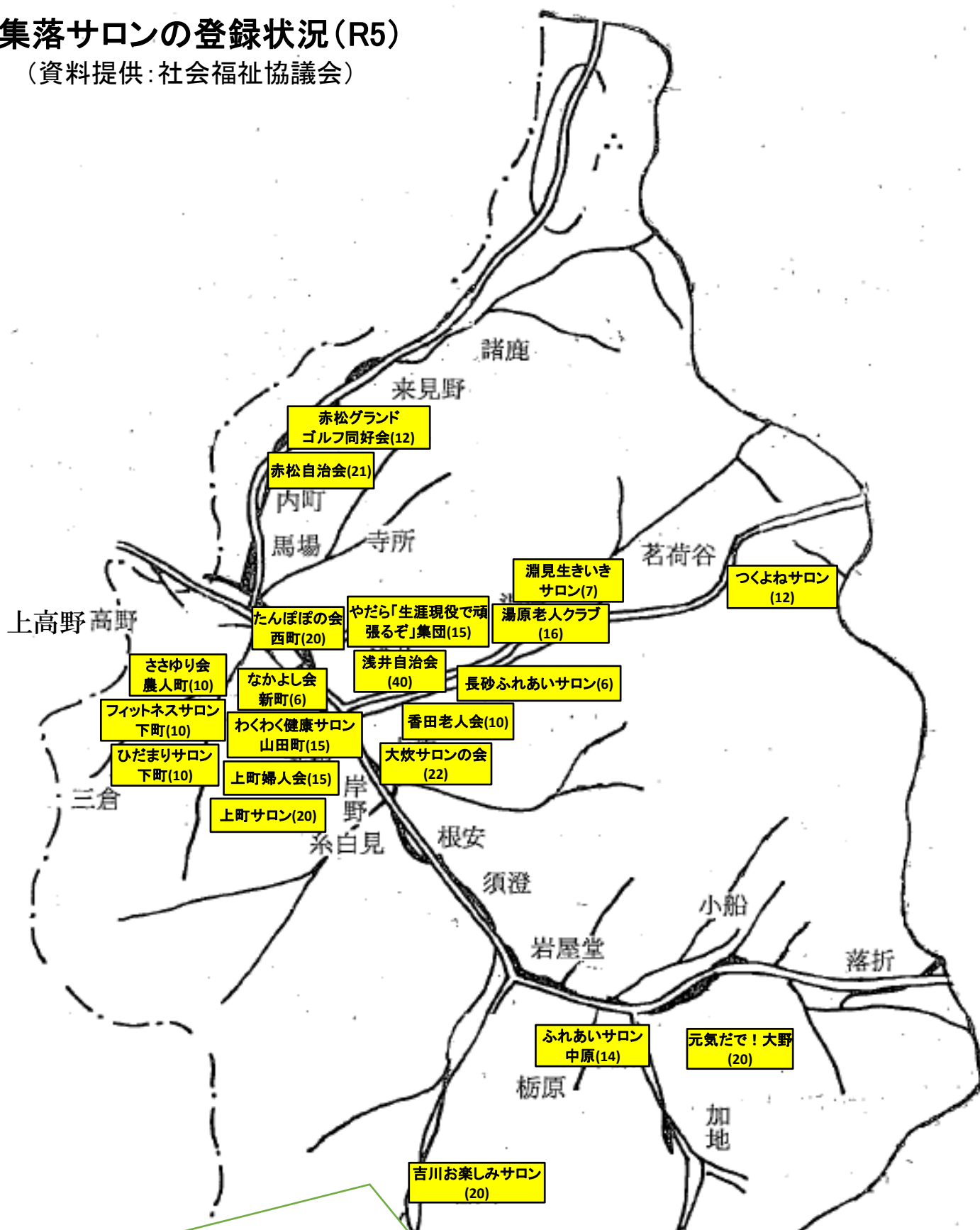
R1年度	回数 22回	参加者数 389人
R2年度	回数 8回	参加者数 90人
R3年度	回数 10回	参加者数 128人
R4年度	回数 10回	参加者数 131人
R5年度	回数 7回	参加者数 101人

※コロナ禍となった令和2年度以降、開催回数、参加者共に減少しており、令和5年5月の新型コロナ5類移行後も、元に戻っていない。

高齢化や、これに伴うサロンや老人クラブ等の担い手不足の影響も考えられ、今後、より一層、保健センター等と連携して個別支援や、介護予防事業、各種保健事業等で健康教育の機会を確保していく必要がある。

集落サロンの登録状況(R5)

(資料提供:社会福祉協議会)



- 令和5年度の集落サロンは、21カ所実施、321人参加された。(R4年度は、22カ所実施、337人参加)
- 栃原サロンが中止となった。サロンの登録者数は年々、減少傾向にある。

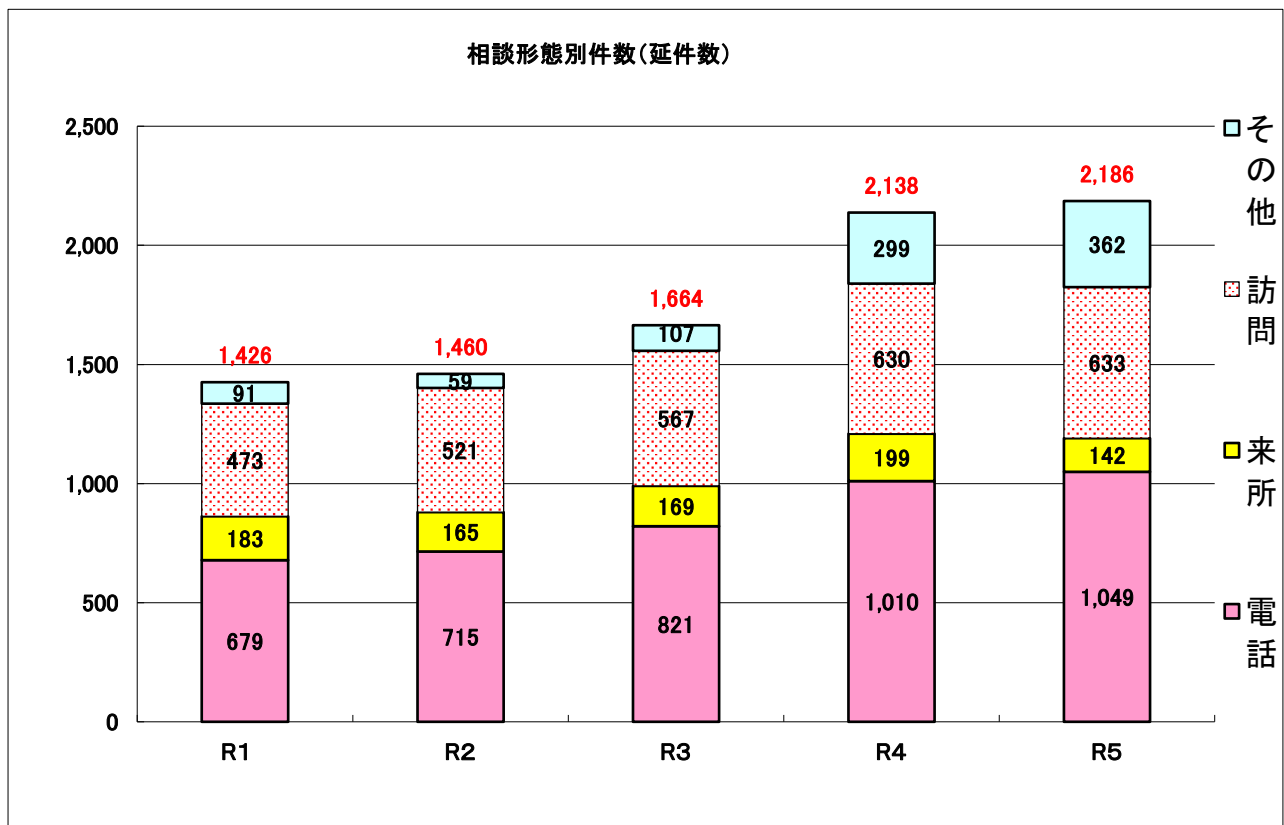
(2) 包括支援センターの相談業務について

① 総合相談業務について

○65歳以上の人口(R6年3月末現在)

年齢 人数	～64歳	65歳～	総合計
		75歳～	
総人口(人)	1,352	1,393	2,750
		844	
高齢化率(%)		50.65%	30.69%

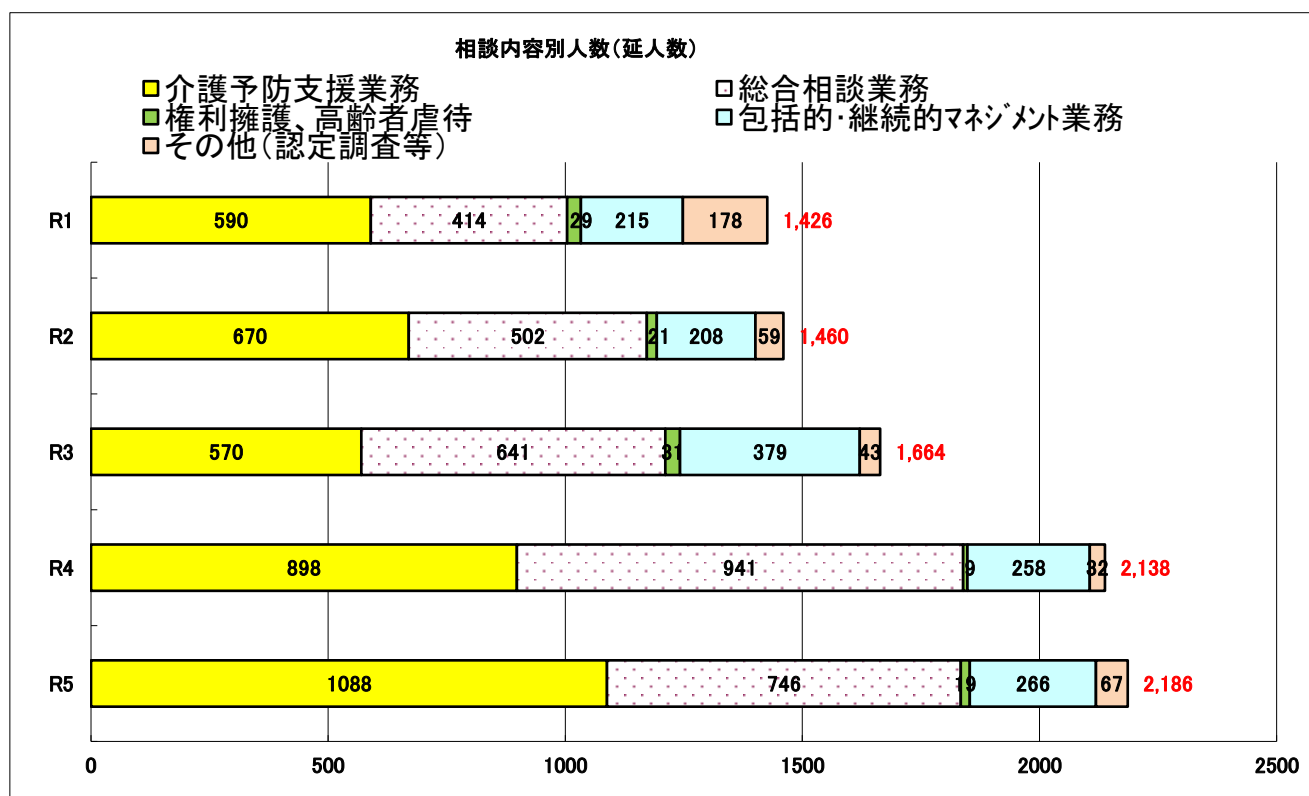
○相談形態(電話・来所・訪問)延べ件数



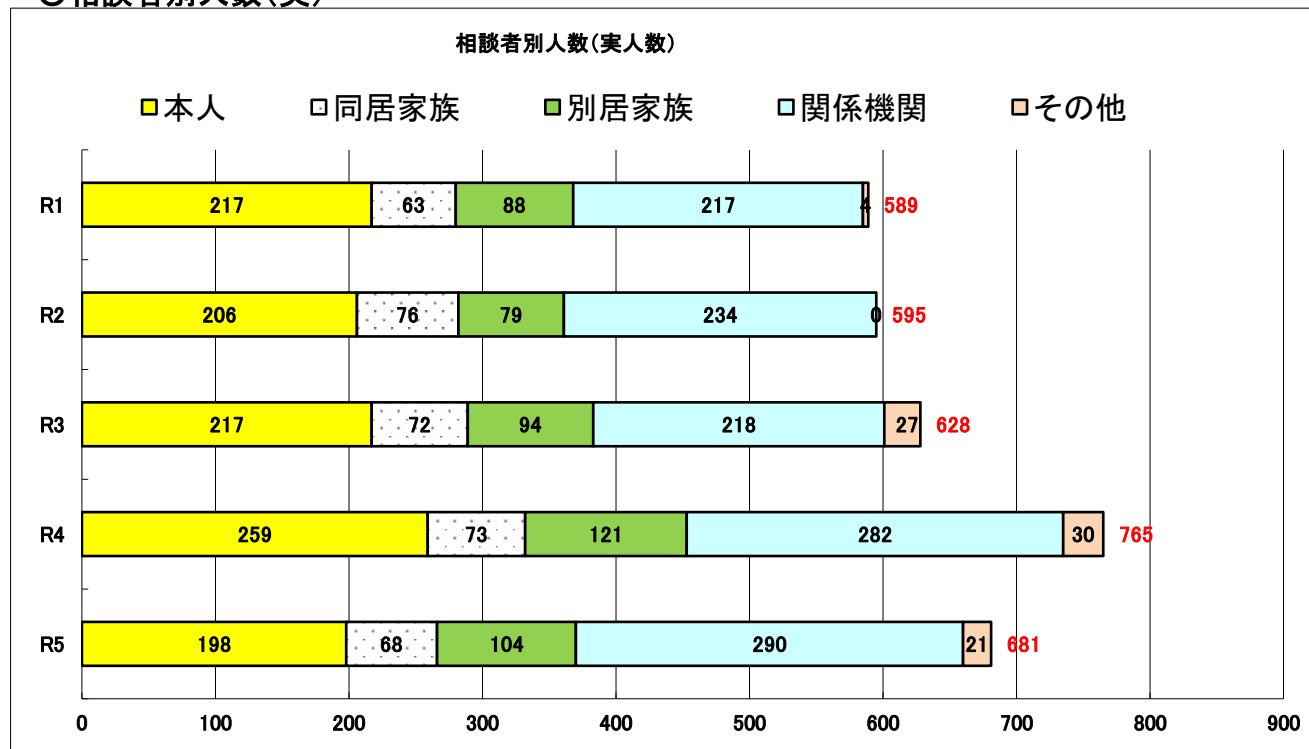
※相談件数はほぼ前年度並みだが、来所による相談がやや減少している

※その他は、事業所などからの文書による報告など

○相談内容別人数(延)



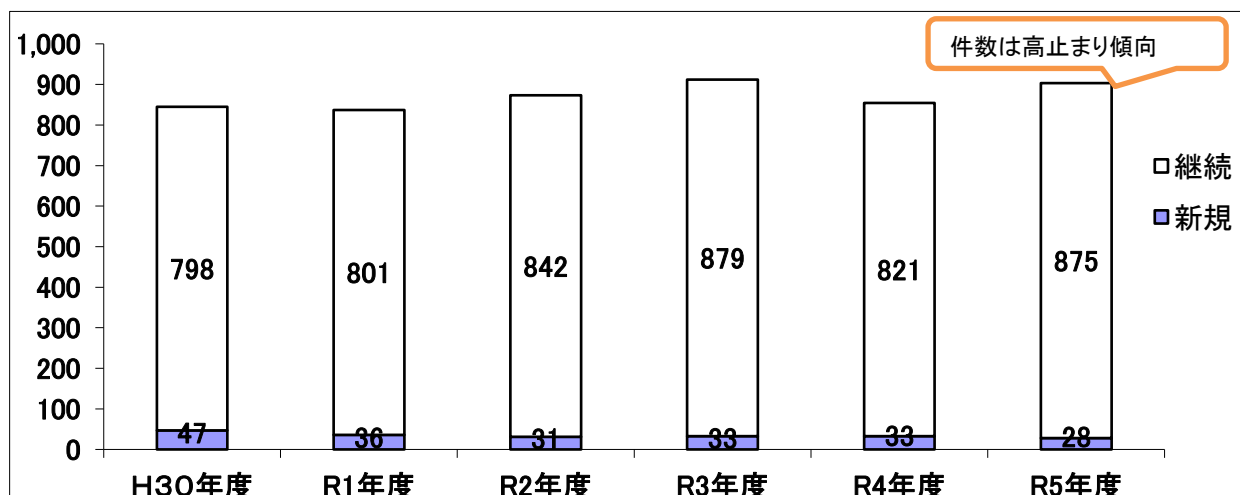
○相談者別人数(実)



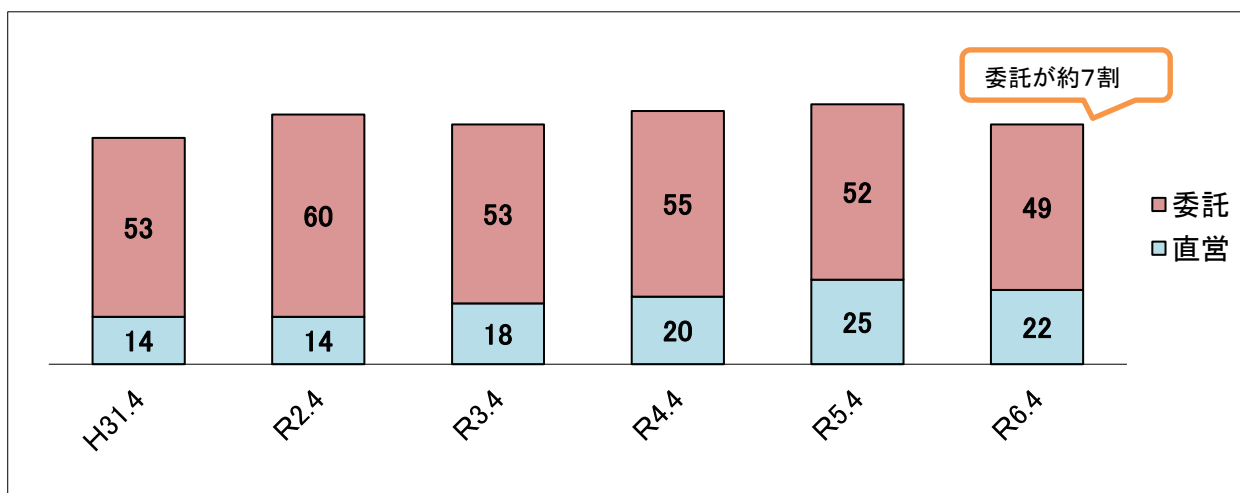
※独居や高齢者世帯で、家族が町外(県外)にいるケースや、身寄りのないケースの相談が増えている

②介護予防ケアマネジメント業務について

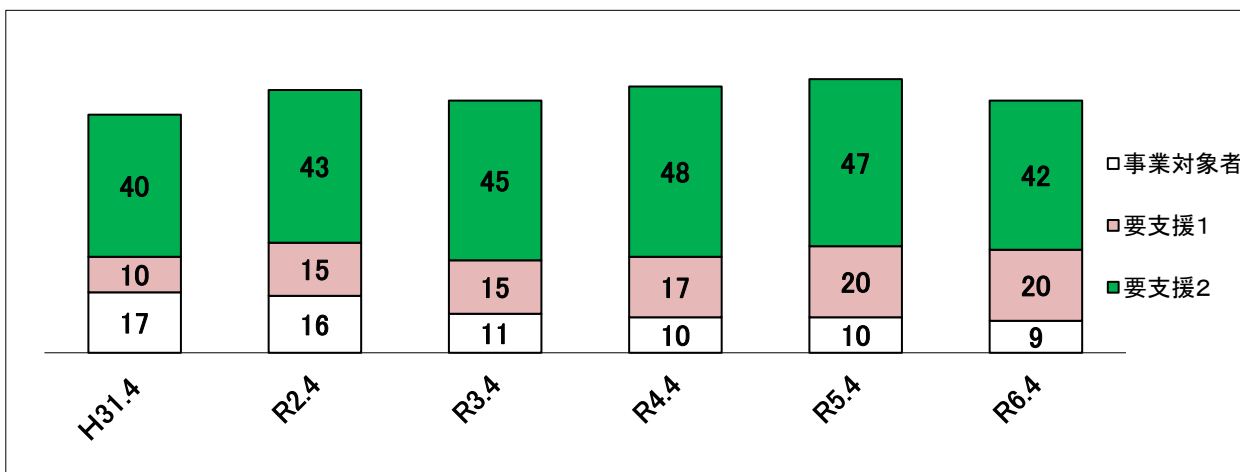
○介護予防計画作成 件数(延べ)〈要支援1・2、総合事業対象者〉(H30～R5)



○計画作成と委託・直営の件数 (件数/月)



○計画作成者の要介護度別件数 (件数/月)

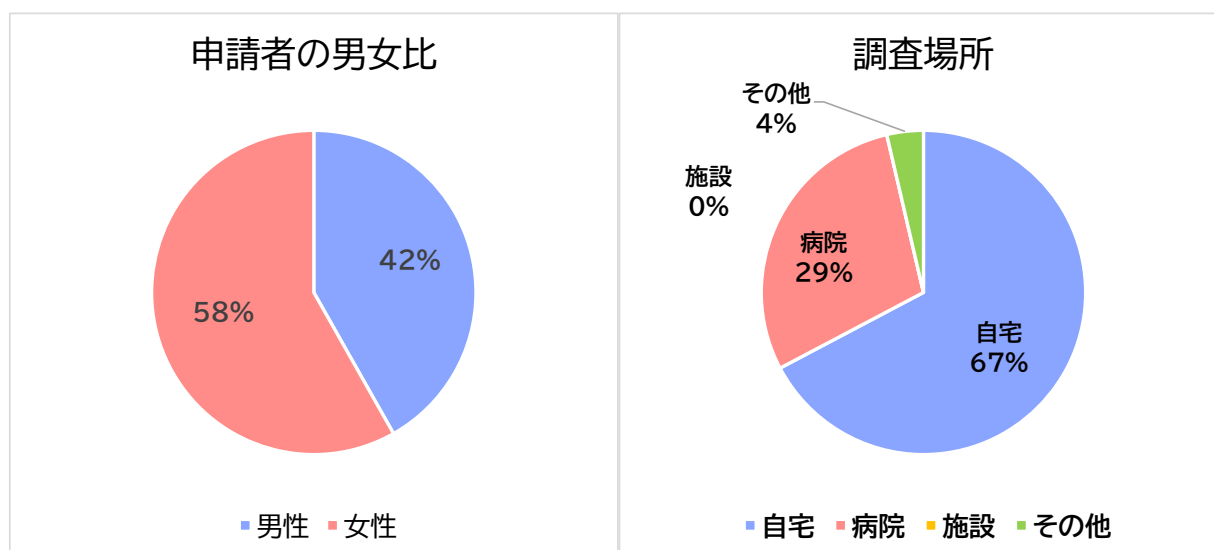
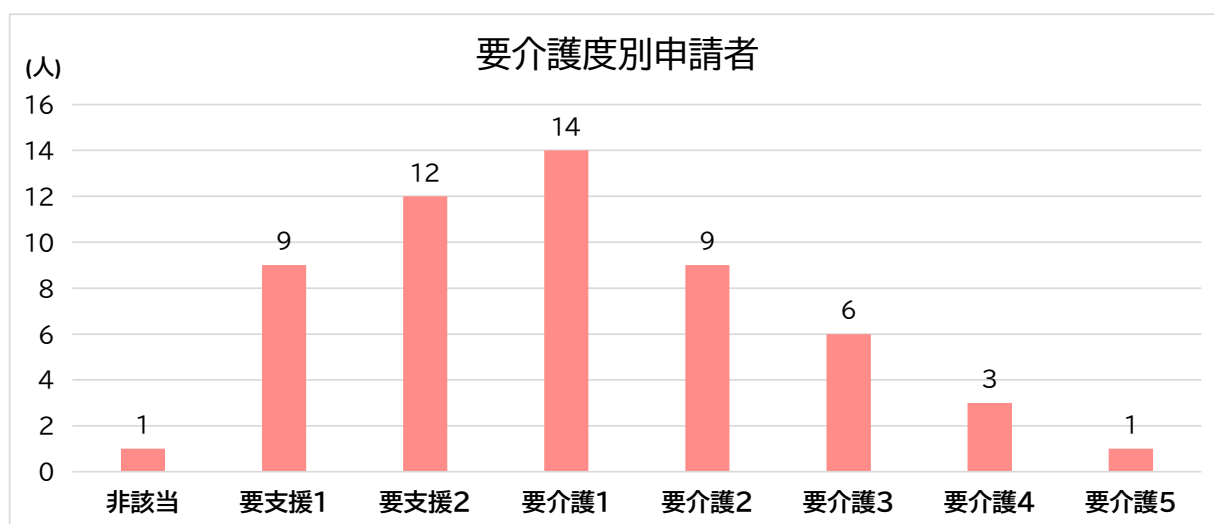
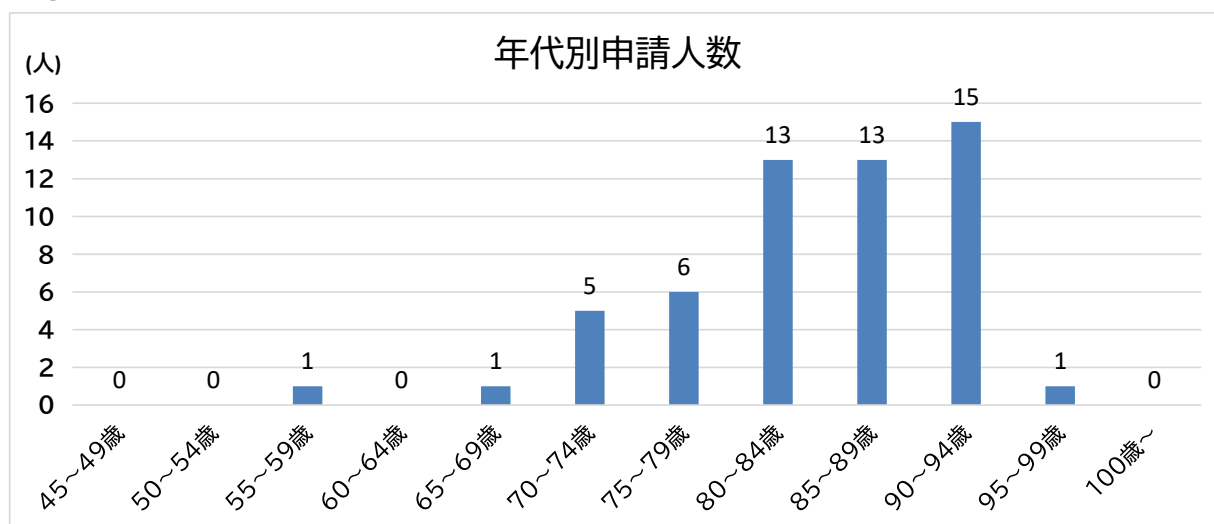


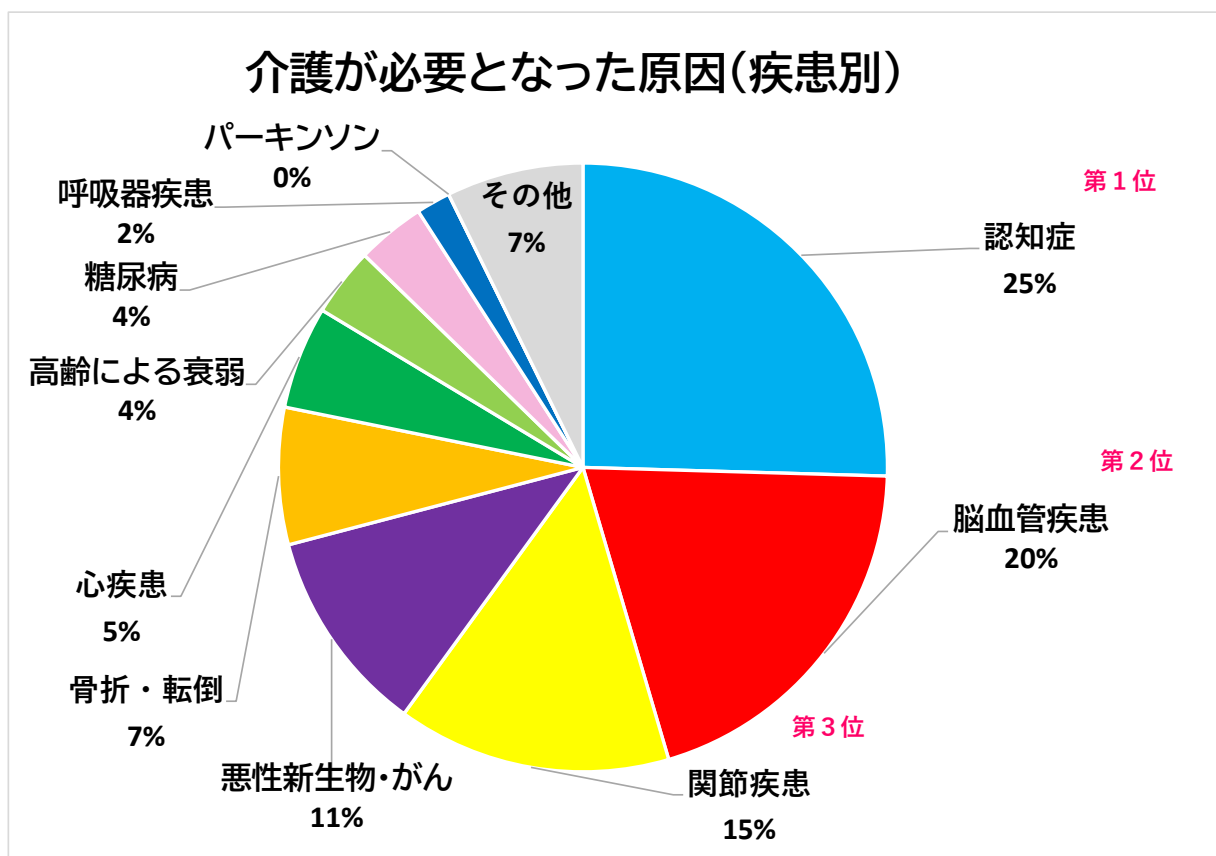
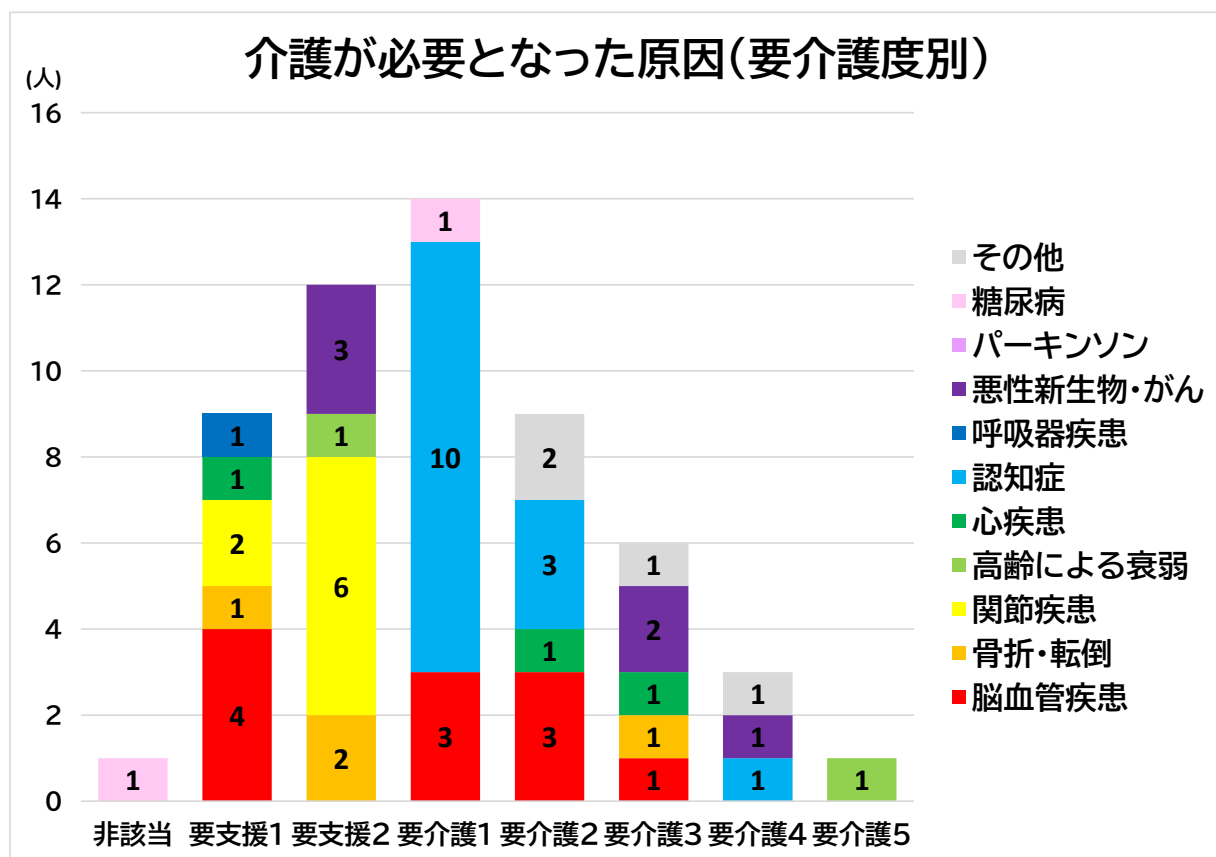
※介護予防計画作成件数は高止まり傾向で、早期からの支援介入が行えている一方、約7割を居宅介護支援事業所への委託に頼っている状況にある

(3) 認定調査について

(令和5年度実績)

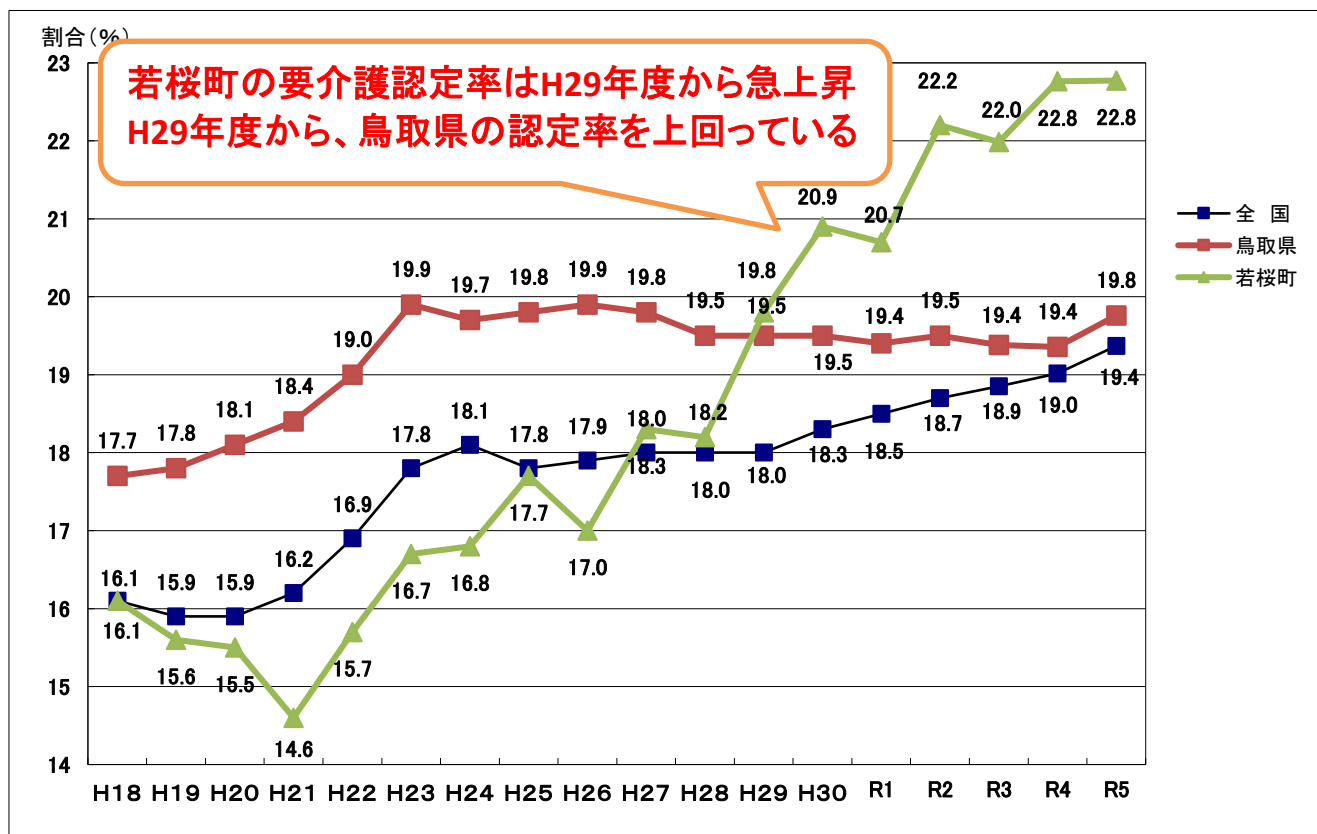
① 新規申請者の状況と認定調査について





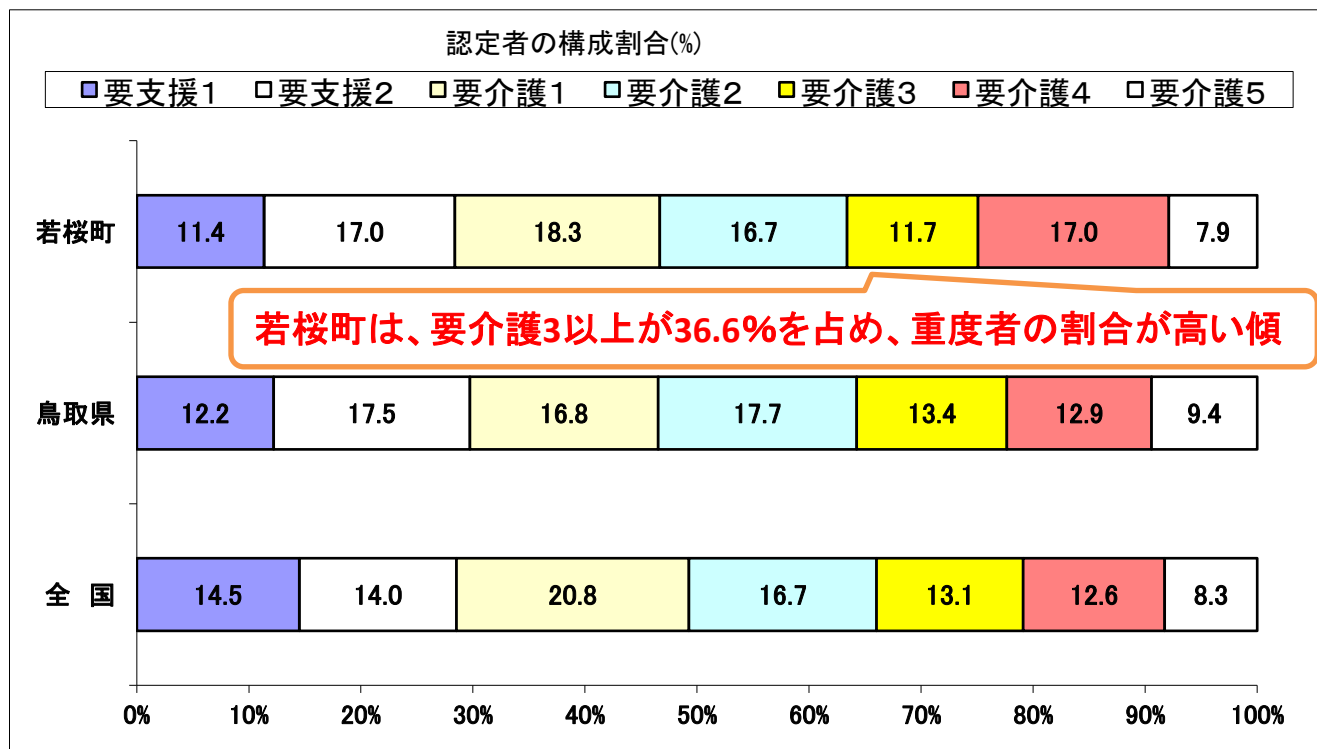
【Ⅲ】参考資料 要介護認定率の状況

①要介護認定率の推移（R6年3月末現在）



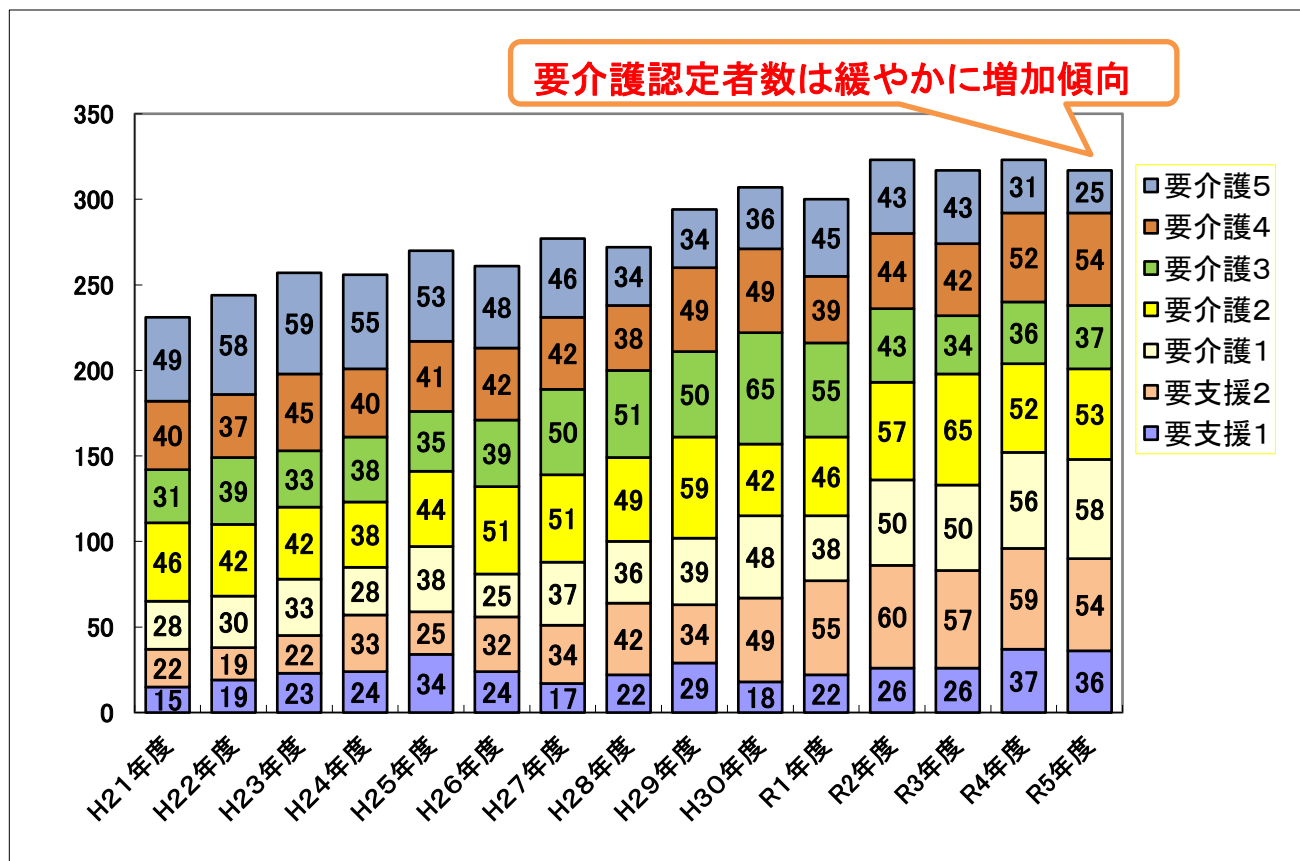
出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告 月報（暫定版）』

②要介護認定者の介護度別割合（R6年3月末現在）



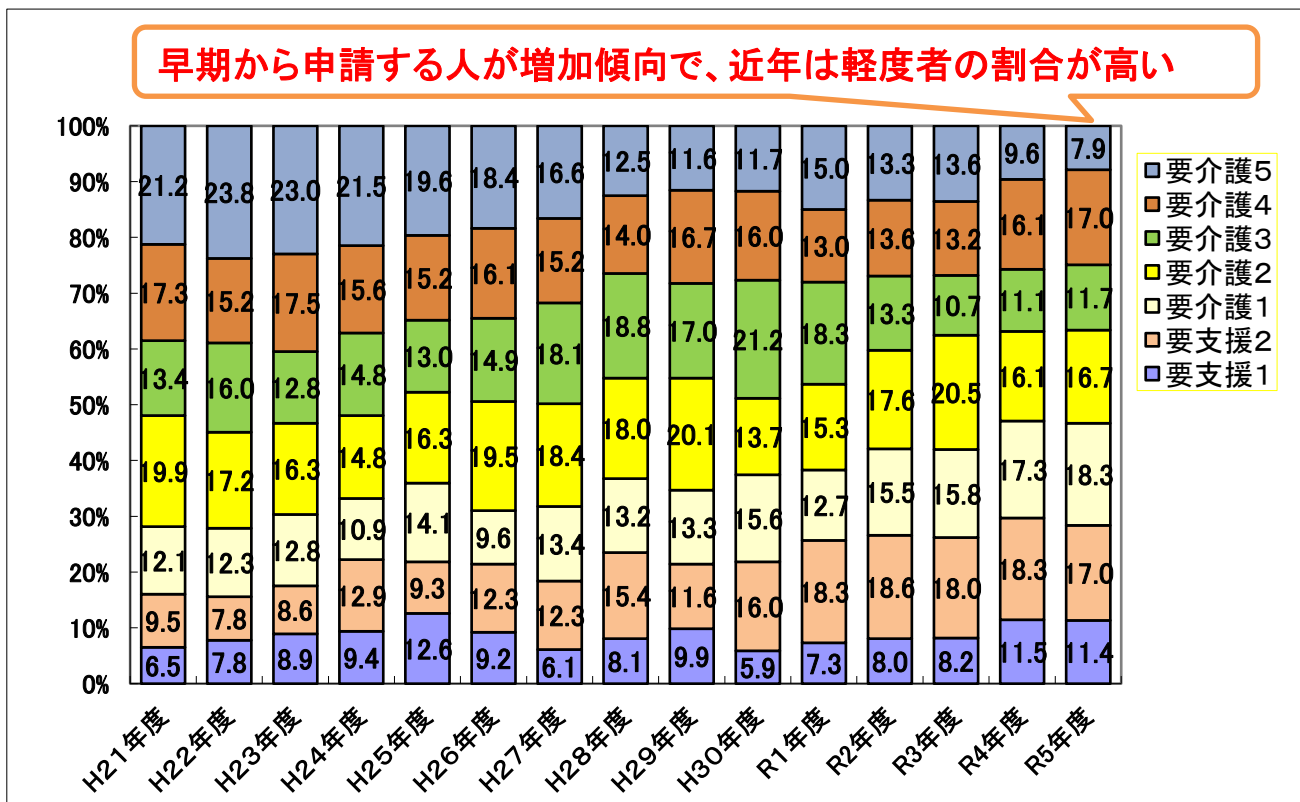
出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告 月報（暫定版）』

③要介護認定者数（各年度末実績）



出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告 月報』

④認定者の介護度別構成割合(%)（各年度末実績）



出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告 月報』

⑤市町村別要介護認定率（％）（R6年3月末現在）

1	北栄町	15.0
2	琴浦町	17.5
3	倉吉市	17.6
4	南部広域	18.1
5	湯梨浜町	18.2
6	智頭町	19.0
7	大山町	19.2
8	八頭町	19.4
9	鳥取市	19.6

10	三朝町	19.9
11	境港市	21.1
12	日野町	21.1
13	岩美町	21.1
14	米子市	21.3
15	若桜町	22.8
16	江府町	23.6
17	日南町	26.6

※11～13は小数点第2位以下の順

出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告 月報（暫定版）』